



木住研 宮越喜彦さん
つくり手インタビュー 第十四回

木の家イベントカレンダー

最近の特集記事

- 2019年6月15日
やさしくて強い、理想の家を求めて：アイ設計研究室 大前泰秀さん
- 2019年5月15日
磨き上げた職人技で、木を生かす：西岡建築一級建築士事務所 西岡健一さん
- 2019年4月20日
大工と左官の職人プロジェクトチーム 総合建築植田 植田俊彦さん 後司さん
- 2019年4月10日
本物の家づくりを、自由に、楽しんで：株式会社木神楽 高橋一浩さん
- 2019年1月5日
新春特集 2018年のベストショット集
- 2018年12月29日
板倉仮設住宅 移設ものがたり part3 大工の声と今後の課題編
- 2018年12月17日
板倉仮設住宅 移設ものがたり part2 実録編
- 2018年12月14日
板倉仮設住宅 移設ものがたり part1 概要編
- 2018年9月4日
番匠 鋸持工務店 副棟梁・鋸持大輔さん
- 2018年8月15日
鶴岡総会予告 その1 散るより、生き延びよ！

人気のある記事

- 伊勢神宮遷宮・御船始祭りに、300年の大木を供する！
18件のビュー
- 家のお風呂 こうやって作る、こうやって保つ
15件のビュー
- 設計士・川端真さん（川端建築計画）：小さな石場建ての家
11件のビュー
- 設計士・古川保さん（古川設計室）：木の家づくりは仕組みづくり
10件のビュー
- 工務店・西條正幸さん（ビオプラス西條デザイン）：北海道産無垢材の木の家づくり
10件のビュー
- 大工・高橋俊和さん（都幾川木建）：初原の営みに魅せられて
8件のビュー
- 大工・池上算規さん（大工 池上）：長崎県産材100%の家ができるまで
8件のビュー
- 工務店・小田貴之さん（オダ工務店）：木の家づくりのプロデュース
8件のビュー
- 大工・宮内寿和さん（宮内建築）：大工が挑戦する「水中乾燥」
8件のビュー
- 林業・和田善行さん（TSウッド協同組合）：山側から提案する家づくり
7件のビュー

この記事のタグ

日本文化と木の家

同じタグがついた別の記事

- 2015年11月9日
第14期 木の家ネット総会 岐阜・加子母大会
- 2009年1月26日
伝統木造設計法構築に向けて、実物大実験！
- 2009年11月27日
「職人がつくる木の家」づくりを未来につなげるアンケート
- 2010年9月9日
こんな土壁つくってます？アンケート集計特集
- 2004年7月25日
五月組：あのサツキとメイの家を建てる

設計 木住研 宮越喜彦さん

1958 埼玉県に生まれる 1980 芝浦工業大学建築学科卒業。木村誠之助総合計画事務所、現代計画研究所を経て 1988 木住研 開設 2001～「職人がつくる木の家ネット」発起人としてたちあげより関わる。現在、運営委員。著書 木造住宅【私家版】仕様書、木造建築用語辞典（いずれも共著）

ひょうたん棚の下で納涼の図。

一昨年の秋、地元入間市の一軒家に事務所を引っ越しました。市役所の真ん前ですが、築30年の古い木造平屋。自宅から自転車通勤しています。

夏は西日がガンガンあたって、暑いんです。よしづぐらいの日陰じゃあ、とても対抗できない、日陰のかたまりをつくらねば。ということで、事務所前の塀との間に、4畳半ほどのパーゴラをかけ、へちまの苗を植えました。と、思ったら、同じ150円で買った苗を取り違えたらしく、実際に育っていたのはひょうたんの苗。今、たくさん成っています。外壁にはインターナシップで勉強に来たものづくり大学の学生さんと一緒に格子をつくって、アイビーをハンギングしています。

朝は水やりをしてから仕事に入ります。日中の暑いときでも水を撒いてやると室内気温が、1度から1.5度低くなることは実証しました。最近、ネットで浮世絵を見るのに凝っているんですが、そんな中で、だんなとかみさんとこどもが、ひょうたん棚の下で夕涼みしている絵に出会いました（納涼図屏風：東京国立博物館所蔵）。空には月。知恵をはたらかせて、季節のきびしさをやり過ごす、さらに積極的に楽しむ。そんなメッセージが伝わってきます。やっぱりこういうのが自然とともに生きていくって感じじゃないでしょうか。

快適環境で失ったもの、知恵と工夫で取り戻せるもの。

ちょっと前までは、家の気密性も、今のような冷暖房設備もなかった日本。それでも、人の体は、きびしい暑さ寒さも適応していました。それだけ、ガマン強かったのでしょうか？ いや、むしろ、きびしい状況におかれた体は、本来、自分で体温を調節できる機能をもっていたのに、快適と思える環境におかれることでそれを失っているかもしれません。自律神経失調ぎみの現代人の姿を見るにつけ、そう思えてなりません。

暑い。寒い。それをしっかりと五感で受け止め、環境を操作するだけでなく、自分の生命体としてのほたらきや知恵で乗り切る。そんな術がたくさんあるはず。クーラーに頼らず、日中の暑さを、生活の工夫で乗り切ってみて、不思議なことに、熱帯夜でも風さえぬければ涼しいと感じられるものです。生活の仕方や工夫、日差しや風のコントロールをすつことによってクーラーなどは必要ないですね。実は人体そのものがセンサー付き環境コントロール装置を持っているんです。

ひょうたんやへちまを植える。お金がかからない上に、植えてからの「待つ時間」がなんとも楽しいです。不思議だったのは、暑くなりはじめたな、という頃と、苗がぐんぐん生長しはじめた時期がちょうどシンクロしていたことです。おかげで、本当に暑くなる頃には、立派な日陰ができました。「今、暑い。ガマンできない。スイッチを入れてすぐ涼しくしたい！」ひょうたんはそういう性急な解決とは、違います。夏に涼しいようにと、初夏から苗を植え、水をやる。時間を先取りし、手間をかけているのです。その結果、自分たちがどうなるかが分かる。それが楽しみ。そんな生き方って、機械で環境を調節するより、ずっと豊かだと思いませんか。しかも収穫後は何を作ろうかという楽しみのおまけつきです。

要望をかなえることに生き方の提案をプラスする。

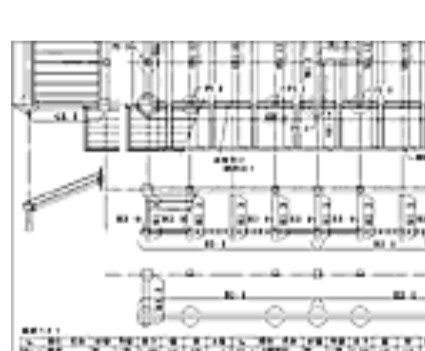


事務所をこの一軒家に移し、実際に自分で汗を流し、暑い夏をしのぐための工夫をあれこれ試してみ、実際にここを訪れてくれる建て主さんと「五感を活かして住まう」なんていう話を、しやすくなったように思います。実感もこめてね。それを実現するのが、日本の気候風土にあった、木と土壁の家なのではないでしょうか。一年中快適室温にするために、家をわざわざビニールで包んで、いらぬ換気扇をまわす。そんなにエネルギーを使わなくても、もっと着心地のいい家がある。季節に合った暮らし方、住まい方を含めて、家なんだ。そんなことを理解してくれる人が増えました。

どんな家に住みたいですか？と建て主さんの要望を訊いて、実際に建てる家を実現していくのがぼくの仕事です。でも、最初のうちは「何量の部屋が欲しい」とか「台所はこうしたい」という表面的な希望しかあててこない。それに対して「こういうことができれば、さらにいいよね」という提案を出していくのが仕事だ、と思っています。生活のスタイル、生き方まで含めた提案をしながら「建てたい家はこれだ！」と最終的に思ってもら。望ましいように思えても、自分の生活とは合っていない！モデルルームのような提案ではなく、こうありたい生活と家をつなぐ。そのための応答には時間をかけます。建て主さんとの会話から、納得できる家をいっしょにつくっていくのです。ぼくができるのは、そのためのアドバイスだったり、技術面での協力だったりするのです。あくまでも建て主さんがつくる家のね。

職人さんのやる気を喚起する図面を書くこと

建て主さんの要望を、しっかりした木の骨組みに起こしていく。それが技術者としてのぼくの仕事です。木拾いや材木の発注も自分ですることが多い。材料まで把握することで、見えてくるものがある。気も引き締まります。伏図や骨組み模型もつくり、継手のイメージも書き込んで、現場の棟梁にぶつけます。そうすると、現場で話し合いが生まれます。ここはもっとこうすればいい、なんていうもうひとつ上の提案が出てくる時はうれしいですね。



木拾いリスト込みの屋根伏図クリップしてPDFファイルダウンロードできます。

「図面が細かい」と言われることがあります。図面は、現場でベストな解決を導き出すための媒体だから、こちらの意図をしっかり書くのです。特に骨組みは、自分が納得できるところまで、よく書き込んでいきます。書いた図面を板図がわりに大工さんがベニヤに貼って使ってくれるのを見ると嬉しくなります。これなら使えろと思ってくれていると思うからです。「図面どおりにやって」とは言いません。ぼくの意図を、実際に材料に触れてつくる職人さんに伝え、この図面以上の答えを出してもらうためのたたき台だと思っています。図面を見て、大工さんが「ここはもっとこういうことをやりたい」と思ってもらえたら万々歳です。

板図：材の刻みに先立って、大工が1/50程度の縮尺で平面図や伏図の部材情報を板に書いたもの。

Like 0 Post



関連する記事はこちら

- 大工・宮内寿和さん(宮内建築)：大工が挑戦する「水中乾燥」
- 工務店・渡邊隆さん(風基建設)：五十年後、百年後に木の家が残る環境をつくること
- 林業・和田善行さん(TSウッド協同組合)：山側から提案する家づくり
- 伝統構法をユネスコ無形文化遺産に！
- 新代表 大江忍インタビュー これからの「職人がつくる木の家ネット」

地域別つくり手リスト

北海道・東北	関東（東京以外）	甲信越・北陸	東海	関西	中国・四国	九州
北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県	群馬県 栃馬県 埼玉県 千葉県 神奈川県 東京都	新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県	岐阜県 静岡県 愛知県 三重県	滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県	岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県	福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県



木の家づくり。
この古くて新しい技術

木住研
つくり手インタビュー 第十四回
宮越喜彦さんに聞く

1 2 3

Like 0 Post

「これからの時代は木の家だ」と思ったきっかけ



西岡棟梁のサイン。
宮越さんの宝物。

大学を出て初めて就職した事務所をやめて時間ができた時、旅をしたんです。奈良に寄って、新薬師寺の再生工事をしている西岡棟梁に会いに行きました。その時に言われたことばが、それから後のぼくの仕事の方向を決めたかな。「木っていうのは無限の材料だよ。再生可能なんだから」と。「そうか!」と、それまでなんとなくもやもやしていたものがパッと晴れたって感じがあった。で、これからの日本の木造に正面から向き合っている事務所に、と、藤本昌也さんが主宰する現代計画の門をたたいたわけです。

その頃の現代計画といえば、藤本さんと田中文男棟梁との出会いから、伝統的な木造軸組構法を「民家型構法」として再整理して、公営住宅を中心に様々な切り口で実践していたいちばんおもしろい時期でした。山から住まい手まで、川上から川下までを結ぶ仕組み、木造住宅の架構のルールなど、今、木の家がちょっとブームみたいですが、すでに1985年の時点で整理されていたと思いますね。

林野庁の助成金を使って建てた「国産材ハウス」、民家型構法による公営住宅など、大きな成果をあげていましたが、当時はそれ以上に伝統構法見直しの大きなうねりにまではならなかった。パブルに向かっていく時代だったしね。環境とか持続可能なっていうキーワードはまだ大きくは取り上げられることはなかったですね。早すぎたのかもしれない。でも、この動きに携わった仲間たちが今、伝統構法の見直しや実践で活躍しています。松井都夫さん、当時は田中文男さんの番頭さんをやっていた渡邊隆さんなど、木の家ネットの仲間にも何人かいますね。ぼくもその輪の中で、いきなり本質に触れ、刺激を受けたことが、独立後を決定付けていると思います。



住宅建築09号別冊としてまとめられたもの。今は手に入らない。宮越さんも執筆している。

木と木をしっかりと組む。それで家はできる



その本質とは、まさに単純明快なこと。つまり、「木と木をしっかりと組めば、それで家ができた」という確信です。木の性質をよく見極め、適材適所に材を使い、組み方のルールを守りさえすれば、必要以上に金物で固めることなくしなくて、しっかりした骨組みができるんです。

住宅金融公庫の仕様書では、木と木の接合部に金物を使うことが決められています。木と木を組む接合部の補強のためだと言います。たしかに、プレカットで刻んで組む簡略化された接合部は、優れた手刻みほど強くなく、心もとない。その分、金物で補強しようというのはある意味正しい。でも、その金物の強度を出すにはある程度太さのある釘やボルトを使わなければならない。現場で木をずっと触ってきている棟梁に言わせれば「そんな釘でとめたら、木が裂けてしまう」補強をするための金物で、木が裂けてしまうなんて! そんな補強をする以前に、木と木をしっかりと刻んで組めばそれでいい。木のこの乾き具合だったら、こう削ろう、こう削じれるからこう刻もう、と見ながらね。そのように経験に裏打ちされた職人さんの勘は、直感というより、最高度の技術の領域なんです。金物での補強よりもそっちの方が信頼できる。

自分自身の感覚を信用することも大事です。公庫の仕様書どおりに建てられた、細い柱と金物だけの家の骨組みと、しっかり木と木を組んだ家の骨組み。現場に立ってみれば、どっちが心強く安心感があるかは、身をもって感じるものです。数値でははかれないものだけれど、これは分かりますよ。もちろん、骨組みと間取りがまっとうに計画されていることが前提です。

阪神大震災後の検証。ますますはっきりしてきた。



事務所の玄関でにらみをきかせている鬼瓦。

ところが、あの、阪神大震災が起きてしまった。古い建物が壊れ、多くの人のいのちが失われました。インパクトの強い映像が流れ「軸組工法では、まずい」というような報道が、繰り返されました。本当にそうなのか。伝統的構法に携わってきた私たちにとっては、大きな課題として突きつけられたわけです。現場の被害状況の報告などからは、しっかりとつくられた伝統的な建物は、ひしゃげてはいても壊れていない。その決めではなかった? ということで、伝統構法の要素技術をひとつひとつ検証する作業が研究者や技術者の間で精力的に行われてきました。



「木造住宅【私家版】仕様書 架橋編」松井都夫・小林一元・宮越喜彦共著 1998年、建築知識、2800円

震災をものりこえた伝統的な建物は、筋交いや合板といった、基準法でいう耐力壁とは別の構え方で、揺れに対して「もって」いました。変形しないというのではないんです。ひしゃげたり、ずれたり、傾いたりしても、抜けたり、倒れたりもしないんです。そうした「ねばり強さ」のものになっているのが、構造的にも利いている太い「貫」であり、柱にしっかりとささっている「差し鴨居」などです。そのあたりの要素技術について、現場に伝えられてきた知恵や技術を、松井さん、小林さんと3人でぼく達なりにあの時点での一つの答えとしてまとめたものが「木造住宅【私家版】仕様書」です。

amazon.co.jpで
購入できます

伝統的構法の家と基準法による家とでは、ここが違う。



初めての冬を越して、チューリップが満開の木住研事務所前。

しっかりとつくられた建物は「もつ」と言いましたが、「もつ」という基準をどこに置くかが問題なんです。専門的な用語になりますが、地震の揺れなどの加力に対して、どれくらいまでの変形を認めるのか、という変形の度合いを「層間変位角」という角度でゆがみ方の程度を測ります。現行の基準法でカバーするのは、1/120ラジアンまでの変形までです。ところが、伝統的構法の建物は、1/120ラジアンを越えて、1/60~1/30ラジアン以上傾いても耐力を少なくおさえる作り方も可能なんです。そこまで傾きグラグラと揺らぎながらも、倒壊はしない。ふんばって壊れないから、生存空間は確保できる。また、ゆがみを直して再利用もできる。やわらかく、粘り強いんです。基準法で耐力壁として認めている筋交いや構造用合板だと1/120ラジアン以内の変形にはとどまるけれど、さらに力を加え続けていくと、パキッと壊れてしまう。堅いけど脆いんですね。このあたりの構造上の特徴の違いについては、研究レベルの実験データが増えってきました。



建て主さんにもこういうことはきちんと説明します。「かたむきますよ」って。でも、かたむくけれど、こういう意味で大丈夫なんだ、ということまできちっと説明します。法律で位置づけられている技術は伝統的構法のほんの一部で、それ以外の技術も活用しながらやっているのだということを話し、最終的な判断は建て主さんに委ねます。大体それで信頼して預けてくれます。最終的には、家を建てるのは信頼関係なんです。誰が、建て主に対して正確に説明ができるか。理解してもらえる会話ができるか。そこが大事でしょうね。

Like 0 Post

1 2 3

関連する記事はこちら



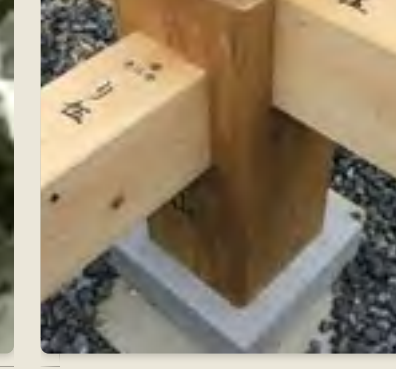
大工・宮内寿和さん(宮内建築)：大工が挑戦する「水中乾燥」



工務店・渡邊隆さん(風基建設)：五十年後、百年後に木の家が残る環境をつくること



林業・和田善行さん(TSウッド協同組合)：山側から提案する家づくり



伝統構法をユネスコ無形文化遺産に!



新代表 大江忍インタビュー これからの「職人がつくる木の家ネット」

木の家イベントカレンダー

最近の特集記事

2018年3月27日 伝統建築に携わるすべての職人に光を

2018年2月7日 「伝統建築工匠の技」木造建造物を受け継ぐための伝統技術」ユネスコ無形文化遺産候補選定のおしらせ

2018年1月2日 新春特別企画 2017年のベストショット

2017年12月14日 第17期木の家ネット総会：食数大会・民家改修と曳家

2017年10月14日 気候風土適応住宅のチラシができました!

2017年9月4日 家のお風呂 こうやって作る、こうやって保つ

2017年8月8日 家にお風呂が入るまで

2017年6月30日 気候風土適応住宅のスヌ

2017年6月3日 掛川総会3

2017年5月31日 掛川総会2

人気のある記事

伊勢神宮遷宮・御杣始祭り：300年の大木を伐る！ 18件のビュー

家のお風呂 こうやって作る、こうやって保つ 15件のビュー

設計士・川崎賢さん(川崎建築計画)：小さな石場建ての家 11件のビュー

設計士・古川保さん(古川設計室)：木の家づくりは仕組みづくり 10件のビュー

工務店・西條正幸さん(ピオプラス西條子ザイン)：北海道で無垢の木の家づくり 10件のビュー

大工・宮内寿和さん(宮内建築)：大工が挑戦する「水中乾燥」 8件のビュー

大工・高橋俊和さん(飯橋川木建)：初原の音みに触せられて 8件のビュー

大工・池上算規さん(大工 池上)：長崎県産材100%の家ができるまで 8件のビュー

工務店・小田貴之さん(オダ工務店)：木の家づくりのプロデュース 8件のビュー

大工・綾部孝司さん(綾部工務店)：原点回帰 7件のビュー

この記事のタグ

日本文化と木の家

同じタグがついた別の記事

2009年12月25日 速報! アンケートの全回答とまとめ

2004年6月25日 火の用心 (後編)

2005年11月25日 大工・川村亮己さん(川村工務店)：石場立ての家

2015年3月13日 伝統構法をユネスコ無形文化遺産に!

2002年1月25日 Q&A：環境篇

事務局
〒711-0906
岡山県倉敷市見島下の町5丁目7-3
見島倉内
mail: jimukyoku@kino-ie.net
tel: 086-486-5464

地域別つくり手リスト

北海道・東北	関東(東京以外)	甲信越・北陸	東海	関西	中国・四国	九州
北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県	群馬県 栃木県 埼玉県 千葉県 神奈川県 東京都	新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県	岐阜県 静岡県 愛知県 三重県	滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県	鳥取県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 高知県	福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 愛媛県



宮越 喜彦さんに聞く つくり手インタビュー 第十四回

伝統的構法は今、追い風！

1 2 3

Like 0 0 コメント

いよいよ伝統的構法が 建築基準法に位置づけられる！

本来、ずさんな家、ひどいつくりの家のボトムアップのためにできたはずの建築基準法が、結果的に、まっとうな伝統的構法の足をひっぱるというおかしな状況は長いことそのままになっていましたが、阪神大震災後の伝統的構法の見直しの流れのなかでようやく様々な成果が出てきて、伝統的構法を正面に見据えた動きが起り始めました。

その建築基準法が、ようやく変わろうとしています。それが今月末に国土交通省から出る「壁倍率に関する告示」。今月（2003年9月）末には出る予定と聞いています。これによって、伝統的な土壁、板壁、格子壁が耐力壁として認められた。これこれの仕様でつくられていれば、これだけの壁量を見込んでよい、ということがはじめて位置づけられます。性能を担保できる仕様ができた。ようやくスタートラインになったところです。

木の家ネットも 伝統的構法の位置づけに一役。

この告示に先立って、2003年の3月から4月にかけて、改正告示案が一ヶ月間公開され、パブリックコメントの募集がありました。それに木の家ネットのメンバーも意見を集約してまとめたものを提出し、5月には木の家ネットが国土交通省にヒアリングと呼ばれ、その結果、木の家ネットの意見が条文に反映された箇所もあります。ばくも、松井郁夫さん、渡邊隆さん、事務局長のヨハナさんに行ってきましたが、行政側も研究者も木の家ネットを、伝統的構法の家づくりを実践する人間の集まりと認識しているということ、これからも情報を共有していこう、という姿勢を感じました。引き続き、8月にも、告示の後に出版される解説書の内容についてのヒアリングを受けました。

差し鴨居や貫も、建築基準法では構造的な要素として、いまだ位置づけられていません。国では、ここ5年ぐらしかけて、伝統的構法について明確に位置づける必要性から、そのための委員会も発足しているということです。それに対して、これからも木の家ネットとして、情報提供や意見表明を続けていく必要がありますね。ようやく、伝統的構法が評価され、法律との整合性もとれてきたといった感じがしています。伝統的構法にとって、時代は、追い風？というよりも時代がやっとなって来たんでしょね。

差し鴨居：近世以降の民家によく使われている、造作材としての鴨居よりずっとはばの広い鴨居のこと。構造材として上からの荷重を支え、水平力に対しても軸組の変形を防ぐはたらきをする。

貫：柱同士をつなぐ横材。真壁の場合の壁の下地とも用いられるとともに、軸組を固める構造材でもある。

伝統的構法見直しの機運は 循環型社会へと向かう社会の要請。

今までの大量生産・大量消費の時代から、持続可能な社会に向けての転換がはからなければいけない。誰も認めるどころです。社会のニーズの変化が、伝統的構法見直しの流れを生んだのです。そういう意味では、伝統的構法は古いものの復活ではなく、終わりが見えてきた近代の後にふたたび評価しなければならぬ新しい価値といえるでしょう。

ぼくたちが学生の頃に思い描いていた輝かしい近未来像とは大分ちがって、これからは、足元をみつめる時代に入ってきています。太陽の恵みで地面から上で取れたエネルギーや資源を、どう、枯渇しないよう、計画的に活用していくか、ということを考えていくことが近未来に向けての何よりの課題です。世の中全体としても、農林業など、第一次産業をこの国土に戻すことを考えていかなければ、環境的に成り立たない。そうした文脈の中では、再生可能な資源である木や土でつくる、長寿命の家が求められるのは、必然的なことなのです。

1000年後の人が、現代人が採用した、どの技術を評価するのか？ 案外それがこの国の家づくりにおいては木の技術なのではないかな、と思うのです。ちゃんと山を育ててさえいれば、1000年後にも木はあるでしょう。鉄やコンクリートより木の方が、延々と残っていくのではないのでしょうか。

伝統構法を「共有できる技術」として 未来につなげるために

伝統構法の家づくりは、あくまでも一品生産。新しい技術とちがって、一律に単純化、合理化、マニュアル化することは本質ではなかった、基本を押えた応用技術でしたから。だから、法律にのっけていくということになじまなかったんですね。補修や増改築を可能とし長寿命の家を考えよう、というなら、伝統的構法のように木を知った技術でないと、対応できないんです。目新しい技術ではその場限りで応用が利かないのです。そういうことをようやく、行政サイドでも聡明な方々には理解していただけるようになって、本当によかったと思います。

伝統構法が、職人の技量や気持ちによってできあがりばらつきが出やすい技術であることもたしかです。告示の解説書を見ると、とてもこまかい部分にまで触れていて、技術のぶれが出ないように、正確に慎重に規定していこうとしているのが分かります。でも、本来の木造技術は、地域差や、その場合に応じた臨機応変な対応ということが必要ですから、そこでできる仕様が新たな「しぼり」にならないよう、留意しなければなりません。そのために現場の実際を知ってもらう努力も大事です。なにしろ、木という生きものを相手にした職人がいてこそその技術なのですから。

未来につなげることのできる技術がまとまり、建築基準法でもその性能を担保できるようになる。まずはそこからの出発ですが、もっと広く見れば、長寿命の住宅を社会的資本とみなす際に相続の問題をどうとらえるか、国産材が再生産性をもつために必要な育林費用をだれが捻出するのかなど、解決すべき問題はいろいろあります。そうしたことまで射程にいれた、伝統的構法再評価のうねりになっていけたらいいな、と思っています。

そして、伝統的構法の技術を未来につなげていくために、なによりも大事なのは、そういう家をつくる現場がたくさんある、ということです。それが、住む人の健康にもいい、気持ちのいい室内環境をもつくる。技術を継承する場にも、山に植林するきっかけにもなる、町並みをもつくる。一軒一軒をていねいに建てていくことで、そんなすばらしい木の家づくりを、広げていきたいです。

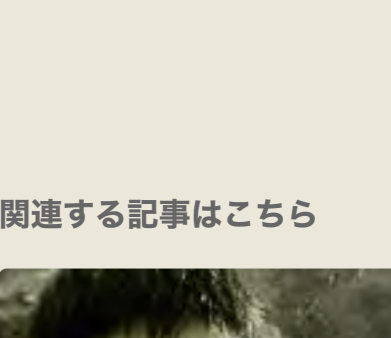
参考図書



Like 0 0 コメント

1 2 3

関連する記事はこちら



大工・宮内寿和さん(宮内建築)：大工が挑戦する「水中乾燥」



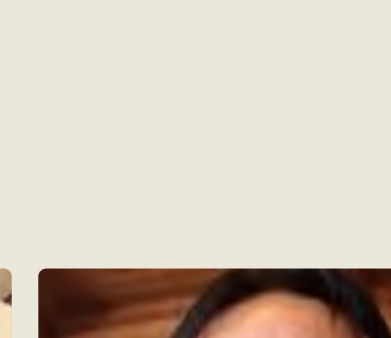
工務店・渡邊隆さん(風基建設)：五十年後、百年後に木の家が残る環境をつくること



林業・和田善行さん(TSUウツド協同組合)：山側から提案する家づくり



伝統構法をユネスコ無形文化遺産に！



新代表 大江忍インタビュー これからの「職人がつくる木の家ネット」

地域別つくり手リスト

北海道・東北	関東（東京以外）	甲信越・北陸	東海	関西	中国・四国	九州
北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県	栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 神奈川県 関東（東京） 東京都	新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県	岐阜県 静岡県 愛知県 三重県	滋賀県 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県	岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県	福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県

事務局
〒711-0906
岡山県倉敷市見島下の町5丁目7-3
見島倉内
mail: jimukyoku@kino-ie.net
tel: 086-488-5464

木の家イベントカレンダー

最近の特集記事

2016年12月23日 掛川総会

2016年8月2日 込み松角ノミ 復活！松井鉄工所訪問記

2016年6月21日 熊本震災レポート2

2016年6月9日 大工たちによる「家戻し」の記録

2016年5月21日 熊本震災調査レポート

2016年4月28日 古川 保の熊本市川尻町 震災日記

2016年3月31日 2/16 衆議院第二議員会館 調査報告会レポート

2016年1月27日 地域型住宅の省エネルギーを～ 2016.1.17 京都市府会報告

2016年1月14日 第15期 木の家ネット総会 高知大会～ 会員発表会～

2015年11月19日 工務店・小田貴之さん(オダ工務店)：木の家づくりのプロデューサー

人気のある記事

伊勢神宮運営・御袖始祭りに：300年の大木を伐る！ 18件のビュー

家のお風呂 こうやって作る。こうやって保つ 15件のビュー

設計士・川端眞さん(川端建築計画)：小川奈石場建ての家 11件のビュー

設計士・古川保さん(古川設計室)：木の家づくりは仕組みづくり 10件のビュー

工務店・西條正幸さん(ビオプラス西條デザイン)：北海道で無垢の木の家づくり 10件のビュー

大工・高橋俊和さん(都幾川木建)：初原の営みに魅せられて 8件のビュー

大工・池上眞規さん(大工 池上)：長崎県産材100%の家ができるまで 8件のビュー

工務店・小田貴之さん(オダ工務店)：木の家づくりのプロデューサー 8件のビュー

大工・宮内寿和さん(宮内建築)：大工が挑戦する「水中乾燥」 8件のビュー

大工・村上幸成さん(村上建築工房)：チームで大きな木の仕事が出来たい！ 7件のビュー

この記事のタグ

日本文化と木の家

同じタグがついた別の記事

2009年12月25日 速報！アンケートの全回答とまとめ

2009年1月26日 伝統木造設計法構築に向けて、実物大実験！

2007年9月27日 大工・金田克彦さん(大工 たいか)建築)：幸せをつくる大工

2009年3月25日 「伝統木造のこれから」大橋好光教授の展望は？

2004年6月25日 火の用心(後編)